

石垣牛流通協議会が通常総会 「首都圏の販売をより一層強化していく」一植村会長

石垣牛流通協議会は20日、東京都内で2025年度通常総会を開催し、24年度事業報告、25年度事業計画案および収支予算などの上程議案を承認した。また、役員改選では、植村光一郎会長(下写真)らを再任した。

25年度事業計画案では、①共同生産出荷に関する協議②流通、販売などの検討および実施③トレーサビリティ検討会会議の実施④積極的な啓もう活動の実施⑤地産地消の支援事業参加⑥生産拡大委員会の実施⑦SDGsの研究会参加一などが示された。

開会に当たり、石垣市の中山義隆市長(代読)が「石垣市においても、消費が低迷している現状、販路開拓は非常に重要な課題であると認識しており、このような状況を打開するため、国内市場における販路開拓にさらに力を入れることを基本としながら、海外市場への輸出についても注力している。近々、八重山食肉センターの回収工事も完了見込みであり、スムーズな認定取得ができるよう取り組んでいる。今後もJA石垣牛のブランド価値向上や消費拡大に向けて、一層の連携と努力が求められるため、皆さまの理解と支援を心よりお願い申し上げます」とあいさつ。

続いて、同協議会の植村会長が「石垣牛において、今期は、1100から1200頭の目標をもって生産に当たっていただくので、首都圏の販売についてはより一層強力に進め、消費者に訴え、また、プロモーション活動にも尽力していきたい。販売促進に努め、石垣

牛だけでなく、地元の農産物なども含めた石垣フェアも行っていきたい。価格の維持には、需給関係が非常に需要

だ。生産者が打ち出した生産目標に対し、われわれも販売量をもって応えるため、需要を掘り起こしていかなければならない。当協会

も5年目となるが、皆さまがたの協力により、流通協議会は発展してきた。今後も、育て、新しいものを作っていきながら、消費者の方がたに喜びを与えていきたい」と語った。

来賓では、自民党幹事長代理の西銘恒三郎氏、JAおきなわの前田典男理事長、農水省の伊藤大介課長、農畜産業振興機構の天羽隆理事長、中央畜産会の姫田尚副会長が祝辞を述べた。

総会後、家畜改良事業団の佐々木整輝氏による「官能評価値に基づく牛肉の客観的食味評価法の構築と成分値からの推定方法」をテーマとした記念講演が行われ、さらにその後は場所を移し、生産者と関係者らによる交流会が開かれた。

